

株式会社精工

デジタル化により低コストによる
極小ロット生産を実現

パッケージダミーから小ロット製品まで、高付加価値を実現



取締役部長 林 正規氏

従来、手間の割りには利幅が少ないといわれてきたパッケージダミー制作。大手企業が嫌がるこの業務にあえて挑戦し、フルデジタル化によりコストダウンに成功。さらにフルデジタル印刷機とAdobe® Illustrator®によって、小ロット印刷物製造の事業化も実現した。

明治44年(1911年)に創業した大阪の小さな印刷所は、たゆまぬ地道な努力と技術力の蓄積により次第に成長し、今や数々の専門工場と全国規模で営業所を展開する企業へと成長。それが株式会社精工である。

成長の過程で包装資材問屋への転身を図りながら、20年前には自社製造によるパッケージメーカーとして主力業務をシフト。農産物の包装資材を中心に事業拡大を行ってきた。

Adobe Illustratorは、その過程の中でパッケージデザインに必要な不可欠なツールとして役割を果たすことになる。

そして1999年。印刷関連の展示会で出会ったフルデジタル印刷機。やがて来るであろうデジタル化の波を敏感に感じ取り、業界に先駆けて自社内に投入。デジタル印刷によるビジネスモデルを模索し続けた結果、現在ではデジタル印刷機とIllustratorによる、低コスト高付加価値商品の製造でビジネスモデルを確立。同社が確立したパッケージダミー制作事業とIllustratorが果たす役割を伺った。

デジタル化とビジネスモデルの模索

「グラビア印刷が主体のパッケージ業界では、2000年当時でもまだデジタル化は進んでいない状況でした。パッケージ印刷は進化していないというのが当社の考えだったんです。」と株式会社精工 デブリ事業部の林 正規取締役部長は語る。

「日本国内では、日本の印刷技術はNo.1であるという意識が強いと思うんです。特にパッケージ業界ではそういった既成観念が根強く、デジタル化への移行はなかなか進まない状況にあったと思います。ただ、デジタル化の波はいきなりやってくるだろうと予想していました。」

そんな状況において、包装資材問屋がデジタル印刷機を導入してどうするんだ?といった声も聞かれたが、精工はデジタル印刷機の導入を次々に進め、新たなビジネスモデルを模索した。

その結果、「最近では、Illustrator CS3のライブカラー機能などをフル活用することで、数百個程度の小ロット印刷でもさまざまなカラーバリエーションを効率的かつスピーディに用意でき、現実的なコストでご提供できるようになっています。」と林氏が語るように、フルデジタルによる新しいビジネスモデルを次々と実現している。

ニッチな市場に高付加価値商品を送り出す

株式会社精工 デブリ事業部 パッケージコンプ 取締役部長 林 正規氏



ライブカラーによるカラーパターンの作成

ライブカラーを使用すると簡単かつ感覚的にカラーパターンの変更が行えるので、菓子のパッケージのように複数の色違いのデザインを用意する場合などに大変便利だ。

デジタル化に合った小ロット生産

パッケージ製造という業務においては、製造ラインを動かす前に、必ずダミー（モックアップ）制作という業務が発生する。パッケージダミーはクライアントが検証するものであり、それゆえに実出力物と同等の品質を要求される。

「もともと日本国内では、パッケージダミーに対価を支払うという商習慣がなかったんですよ。」と林氏は語る。従来の商習慣では、ダミー制作のコストは、実際に受注した製造コストの中で吸収するものという意識が強かったという。しかし、その商習慣に果敢に挑戦しようと考えたのが精工であった。

「デジタル印刷機による印刷は、大量生産には向かない。小ロット生産に見合った業務を考えたととき、パッケージダミー制作というビジネスモデルに思い当たったんです。」

パッケージダミー制作におけるデザインの可能性を広げるIllustrator

「必要な時に、必要な量、必要な形で」納品できるという同社のパッケージダミー制作は、印刷機だけでは成り立たない。「デジタルデザインを容易に行えるIllustratorの存在が大きいのです。」と林氏。

デジタル印刷を導入する以前から同社ではIllustratorを活用していたが、それまでに積んできたデータをスピーディーかつ効率的に印刷できるというデジタル印刷機のメリット、その両者の組み合わせによる相乗効果により、様々なデザインバリエーションをジャストインタイムで用意することができるという、パッケージダミー制作にとって後押しとなる利点を享受することができたのである。

最新バージョンのIllustrator CS3ではライブカラーが搭載され、デザインに対して様々なカラーパターンをスムーズに適用することができるようになったため、パッケージのカラーバリエーションを作成する作業時間を大幅に短縮することができたそうだ。

ライブカラーでは、各カラーを個別に変更するだけでなく、各カラーをリンクさせ全体のバランスを見ながらカラーの調整を行うことが可能だ。また、カラーを減色したり、特色に置きかえることもできる。

「以前はデザイナーがパッケージのデザインを作成していると、どうしても各個人の嗜好によって似たようなカラーパターンに偏りがちになっていました。ライブカラーを使用して直感的にカラーの組み合わせを試しているうちに、自分でも思いつかない意外性のあるパターンを発見することもあるんですよ。」と製作現場での面白いエピソードを林氏は語ってくれた。

また、営業的な面でも、ライブカラーによる思わぬ恩恵を得られているとのこと。クライアントにデザインを見せる際に、Illustratorが実装しているライブカラーが提示したカラーパターンであることを説明すると、非常に説得力があるのだそうだ。

現在、デジタル印刷機とIllustratorの組み合わせで構築されたパッケージダミー制作というビジネスモデルは、およそ450社のクライアントを有するデブリ事業部として、精工の一翼を担う業務にまで成長している。

BtoBからBtoCへ 広がる小ロット印刷ビジネス

当初、パッケージダミー製造で始まった精工のフルデジタル印刷事業は、BtoBとして成功を取めたもの。それを現在では、さらに一歩進め、BtoC事業へと展開を図っている。「低コストでの小ロット印刷という特性を活かせば、ダミーではなく、製品製造も可能だと気付いたんです。」

小ロット印刷によるパッケージを広告媒体と捉えた林氏は、ノベルティに目を付けた。たとえばワンドリップ式のコーヒーパッケージに企業広告を印刷することでノベルティとしての付加価値を高めるのである。

また、ノベルティの特性としてデザイン的に多様な製品を用意することで、コレクター欲なども刺激し、ノベルティとしての品質をさらに高めるといった施策も取る。

「最新のIllustrator CS3のライブカラーを使えば、同じレイアウトでも異なるカラーバリエーションを簡単かつ高品位に制作することが可能」であり、新たなビジネスモデルとして、すでに成功を取めている。

「今後も小付加価値、高付加価値の両面で、小ロット印刷の強みを活かしたデブリ事業を躍進させていきたい。」と林氏は語った。

会社データ

株式会社精工
東京都中央区
<http://www.seikou-web.co.jp/>

チャレンジ

パッケージ業界における新たなビジネスモデルを模索し、事業として実現。

ソリューション

デジタル印刷機とIllustratorによるフルデジタル化で低コストかつ高付加価値な製品製造。

ベネフィット

Illustrator CS3のライブカラーにより、製品デザインバリエーションを容易かつ高品位に生成。

Tool Kit

・Adobe® Illustrator® CS3